
九州地域エネルギー・温暖化対策推進会議

「FFGにおける脱炭素経営に向けた取組み」

株式会社 福岡銀行
産業金融部 サステナビリティ推進グループ
2022年12月5日

本日のテーマ

1. FFGのサステナビリティ取組み

2. お客様向けサステナビリティ活動支援

3. 脱炭素経営を取り巻く状況

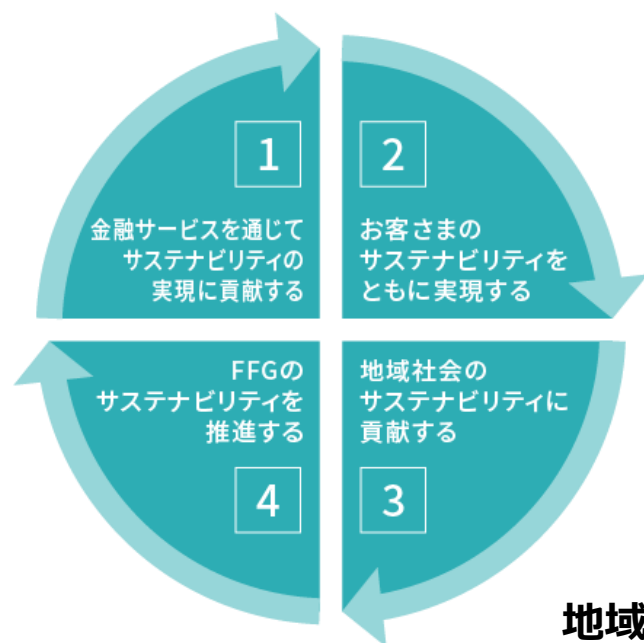
1. FFGのサステナビリティ取組み

FFGのサステナビリティ取組み

➤ FFGは、2020年8月 グループ経営理念を念頭に「サステナビリティ方針」を制定

サステナビリティ方針

ふくおかフィナンシャルグループは、
グループ経営理念に基づく事業活動への取り組みを通じて、
「地域経済発展への貢献」と「FFG企業価値の向上」の
好循環サイクルを創出し、
持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります



- 1** 金融サービスを通じてサステナビリティの実現に貢献する
～サステナビリティ関連サービス～
法人・個人ともに、顧客のSDGsニーズに対応する商品開発を行っています。
- 2** お客様のサステナビリティをともに実現する
～お取引先企業へのSDGs支援～
SDGs支援子会社「サステナブルスケール」では、外部連携を進めながら、お取引先のサステナビリティ関連の取り組みを評価するスコアリングモデルを開発しています。
- 3** 地域社会のサステナビリティに貢献する
～地域を“つなぐ”存在として～
地域金融機関として築いてきたネットワークや地元密着の関係性を基盤に、土地や人を“つなぐ”ことで、FFGだからこそ実現できる地域活性化に取り組んでいます。
- 4** FFGのサステナビリティを推進する
～持続可能な組織へ～
気候変動への対応を、経営戦略上の重要な要素と位置づけ、TCFDに賛同しています。

地域とともに歩んできた私たちの「仕事に対する思い」を言葉にしたもの

SDGs重点項目と取組内容

重点項目・対応するSDGs目標	主な取組内容
1. 地域経済の健全な成長   	➤ 地方創生への取り組み ➤ 事業性評価の取り組み ➤ PPP/PFIへの取り組み ➤ 地域再生・活性化ネットワーク
2. 産業発展と金融イノベーション    	➤ オープンイノベーションへの取り組み ➤ 産業調査と事業機会創出の取り組み ➤ iBank事業 ➤ みんなの銀行
3. 少子高齢化への対応    	➤ 事業承継支援 ➤ 長期的な資産形成（投信のパレット） ➤ 高齢者向けの金融サービスの拡充
4. 環境への配慮  	➤ 環境・社会に配慮した融資の取り組み ➤ 気候変動リスクへの対応 ➤ 環境型商品の充実 ➤ 環境共生活動
5. 豊かな地域社会の実現     	➤ 「みんなに優しい」活動（ユニバーサルアクション） ➤ 生涯学習支援 ➤ 文化芸術・スポーツ活動
6. 新しい働き方の推進  	➤ ダイバーシティ活動推進 ➤ 仕事と家庭の両立支援 ➤ 働き方改革 ➤ テレワークへの対応
7. ガバナンスの強化 	➤ コーポレートガバナンス体制強化 ➤ リスク管理への取り組み ➤ リスクアペタイト・フレームワーク ➤ コンプライアンスへの取り組み

FFGのサステナビリティ目標

■ 環境課題への対応（気候変動への対応）

課題	取組	優先課題対応状況
カーボンニュートラル（CN）に向けた取組み	自社CN	自社のCO2排出量削減目標を設定・对外公表 (2030年度にCO2排出量ネットゼロ)
	お客さまのCN（ポートフォリオの脱炭素化）	2020～2030年度サステナブルファイナンス累計実行額目標 2 兆円 (うち環境 1 兆円) を設定 ➡ 2020～2021年度累積実行額1,900億円(うち環境900億円)

■ 社会課題への対応

多様性の尊重・女性等活躍推進その他	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン	2030年度末までに役職者に占める多様な背景を持つ人財（女性、キャリア採用等）の比率を35%以上に設定
	生涯学習支援	2030年度までに金融経済教育受講者数10万人（年間約1万人）

2. お客様向けサステナビリティ活動支援

お客様向けサステナビリティ活動支援

▶ 2021年4月、九州大学と連携しSDGs支援子会社「サステナブルスケール」を設立

SDGsに新しい“ものさし”を



SDGsの評価・発信を通じて、“SDGs≒サステナブル”の意義・有用性を広め、経営への実装をサポートしていきます



馬奈木 俊介 主幹教授

会社名	株式会社 サステナブルスケール
株主	FFG 100%
事業	1. 地域企業のSDGs評価・分析、発信 2. コンサルティング、企業育成、ビジネスマッチング
設立日	2021年4月1日

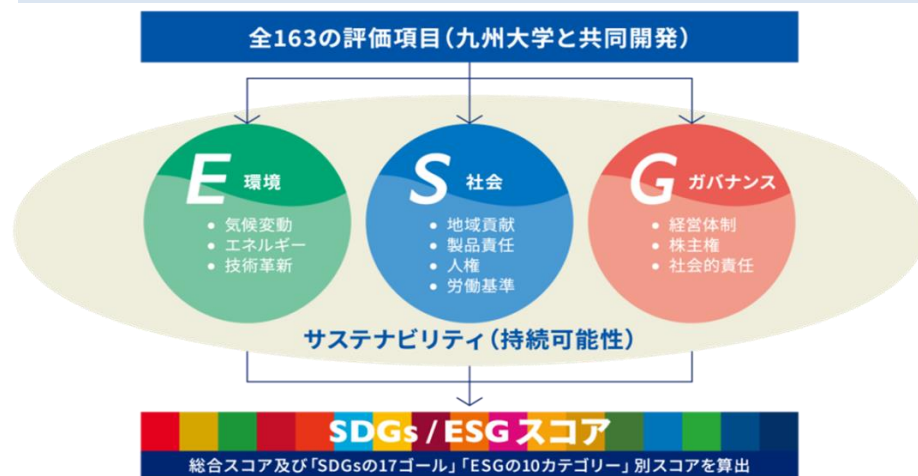
サステナビリティ支援ツール「Sustainable Scale Index」

➤ SDGsの取組みを測る新しい“ものさし”「Sustainable Scale Index」を展開し、企業の持続的な成長を支援

サービス概要



サービス名	Sustainable Scale Index
内容	SDGs・ESGの全163の評価に基づくスコアリング評価システム
特徴	SDGs・ESGそれぞれの自社評価のほか、類似企業との相対評価による立ち位置及びサプライチェーンやステークホルダーが意識しているSDGs・ESGの重要な論点を読み取る事が可能
サービス開始	2021年11月15日



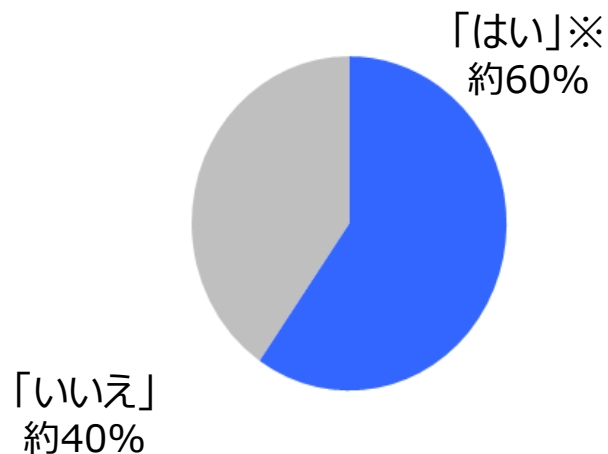
3. 脱炭素経営を取り巻く状況

脱炭素経営を取り巻く状況～お客さまの取組み状況～

- 2021年11月よりサービスを開始したSustainable Scale Index（以降、SSIndex）では「CO2の排出量を測定しているか」問う評価項目を設けており、現在FFG3行取引先の約8割は「いいえ」の状況

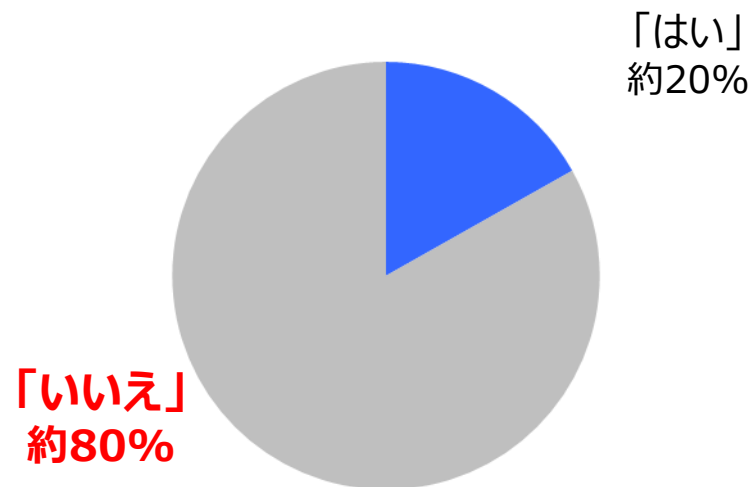
Sustainable Scale Indexのヒアリング状況

「CO2の排出量削減に取り組んでいますか」



※CO2排出量削減取組例：
電気自動車・ハイブリット車の積極利用

「CO2の排出量を測定・把握されていますか」



脱炭素経営を取り巻く状況～FFGの対応～

➤ FFGでは、GHG排出量算定サービス「zeroboard」と連携協定を締結し、脱炭素経営支援を開始



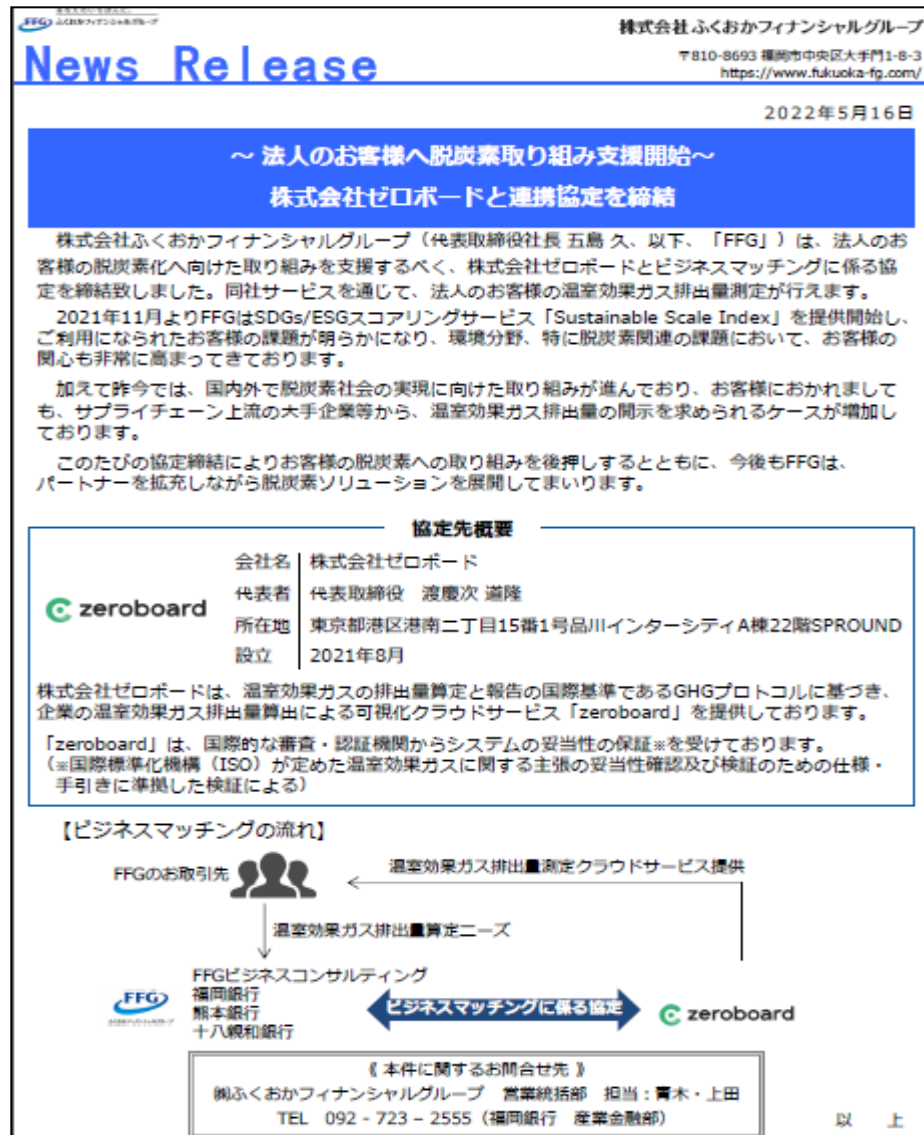
GHG（温室効果ガス）排出量 可視化クラウドサービス

このような課題はありませんか？

- ✓ GHG（スコープ1～3）の集計業務に時間がかかる
- ✓ 国内環境法令と金沢市場向けの開示で多重管理が発生
- ✓ 可視化はできたけれど、どこから削減すれば良いかわからない

“zeroboard”はGHG排出量算出・開示業務の効率化と削減管理ができます

特長1	特長2	特長3
 サプライチェーン排出量の算出対応 煩雑なデータ収集を必要とするサプライチェーン排出量の算出や、製品ごとのCO2排出量の算出	 各種報告形式でのアウトプット TCFD等の国際的な開示形式に加え、省エネ法・燃費法など、関係機関からの報告形式での出力が可能	 ダッシュボードによる削減管理 削減性の高いダッシュボードによるCO2排出量の削減管理やコスト削減効果のシミュレーション機能



News Release

株式会社ふくおかフィナンシャルグループ
〒810-8693 福岡市中央区大手門1-8-3
<https://www.fukuoka-fg.com/>

2022年5月16日

～法人のお客様へ脱炭素取り組み支援開始～
株式会社ゼロボードと連携協定を締結

株式会社ふくおかフィナンシャルグループ（代表取締役社長 五島 久、以下、「FFG」）は、法人のお客様の脱炭素化に向けた取り組みを支援するべく、株式会社ゼロボードとビジネスマッチングに係る協定を締結致しました。同社サービスを通じて、法人のお客様の温室効果ガス排出量測定が行えます。

2021年11月よりFFGはSDGs/ESGスコアリングサービス「Sustainable Scale Index」を提供開始し、ご利用になられたお客様の課題が明らかになり、環境分野、特に脱炭素関連の課題において、お客様の関心も非常に高まってきております。

加えて昨今では、国内外で脱炭素社会の実現に向けた取り組みが進んでおり、お客様におかれましては、サプライチェーン上流の大手企業等から、温室効果ガス排出量の開示を求められるケースが増加しております。

このたびの協定締結によりお客様の脱炭素への取り組みを後押しするとともに、今後もFFGは、パートナーを拡充しながら脱炭素ソリューションを展開してまいります。

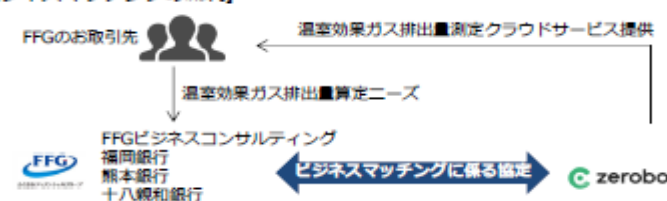
協定先概要

会社名	株式会社ゼロボード
代表者	代表取締役 渡慶次 道隆
所在地	東京都港区港南二丁目15番1号品川インターシティA棟22階SPROUND
設立	2021年8月

株式会社ゼロボードは、温室効果ガスの排出量算定と報告の国際基準であるGHGプロトコルに基づき、企業の温室効果ガス排出量算出による可視化クラウドサービス「zeroboard」を提供しております。

「zeroboard」は、国際的な審査・認証機関からシステムの妥当性の保証※を受けております。
（※国際標準化機構（ISO）が定めた温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様・手引きに準拠した検証による）

【ビジネスマッチングの流れ】



FFGのお取引先（福岡銀行、熊本銀行、十八親和銀行）は、温室効果ガス排出量測定クラウドサービス提供と温室効果ガス排出量算定ニーズを、FFGビジネスコンサルティングを通じて、株式会社ゼロボードとビジネスマッチングに係る協定を締結し、サービスを利用します。

《本件に関するお問合せ先》
 ㈱ふくおかフィナンシャルグループ 営業統括部 担当：青木・上田
 TEL 092-723-2555（福岡銀行 産業金融部）

以上

脱炭素経営を取り巻く状況～脱炭素経営の出発点～

- 企業として脱炭素経営に取り組む際、自社の状況を把握する為には、まずは「見える化」が必要
- 現状を把握することで、削減に向けた具体的な施策が立てられる

温室効果ガス排出量の算定

全体を把握することで、優先的に削減すべき点が見えてくる

具体的な削減への目標が立てられる

削減策の検討が出来る

・省エネ
・再エネ
・電化

削減効果の開示

削減行動の結果を見える化し、外部へ報告することが出来る

現状

Scope1

Scope2

Scope3

目標

Scope2

Scope2が多い場合

【再エネ】自家消費型太陽光発電の導入等



設備投資などの資金支援等

お客様との対話事例

SS Indexを起点とした対話を行うなかで、お客さまが上場企業との取引にて、温室効果ガス排出量の算定を求められるかもしれないという不安を口にされた。

SDGs登録制度の対象先やSS Indexに関心のあるお客さまを訪問するなかで、お客さまがexcelで温室効果ガスの算定を行なっていることがわかった。

scope1とscope2の算定までは行なえているが、scope3の算定に課題を抱えていることがわかった。

脱炭素経営を取り巻く状況～お客さま向け支援～

➤ FFGでは、お客様のCO2排出量削減に向けた支援として、脱炭素関連のビジネスマッチングラインナップを用意

お取引先企業より脱炭素取組みニーズ取得

脱炭素取組みソリューション企業を紹介

 福岡銀行

SSIndexを通じた対話

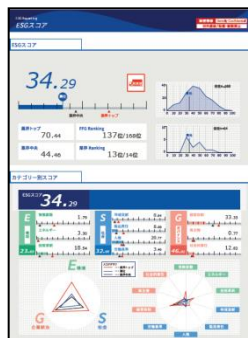


取引先

対話



営業店



 FFGビジネスコンサルティング

顕在化したニーズに対応したビジネスマッチング

マッチング企業

カテゴリー

サービス内容

	算定	- GHG排出量算定 クラウドサービス提供
A社	省エネ	- 電力制御システムの提供
B社	再エネ	- 太陽光発電システムの提供
⋮		

* 提携先随時拡大予定

サステナブル・ファイナンス～金融の果たせる役割～

- 環境・社会の課題解決に資する技術力や製品・サービスの可能性を見出し、その成長を金融面から支援

■ サステナブル・ファイナンスに取り組むメリット

1. サステナビリティ経営の高度化
(SDGs/ESGの視点の導入・高度化)

2. プロジェクト推進の対外的なアピールを通じた
社会的な支持の獲得
(顧客・人財の確保)

■ 将来的に…

➤ 野心的な目標を掲げることになる為、会社一丸となってその目標に取り組む中で、社員全員が今まで以上にSDGs/ESGを意識し、日頃の業務に落とし込める

➤ 積極的にサステナビリティへの取り組みを対外的に発信することにより、社会的支持の獲得に繋がり、優秀な人財の確保、企業価値の向上に繋がる

サステナブル・ファイナンスの取り組みは、持続可能な社会牽引企業として、社内・社外に向けての大きな発信・推進に繋がる

FFGにおけるサステナブル・ファイナンス取組み事例（1）



News Release



〒810-8693 福岡市中央区大手門1-8-3
https://www.fukuokabank.co.jp

2022年9月30日

グリーンローン実行のお知らせ ～GLP福岡小郡プロジェクトへの取組み～

株式会社福岡銀行（本社：福岡県福岡市、代表取締役頭取：五島久、以下「福岡銀行」）は、日本GLP株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：帖佐 義之、以下「日本GLP」）が開発するGLP福岡小郡プロジェクトに対し、下表の借入人を調達主体とするグリーンローンを実行致しましたので、お知らせいたします。福岡銀行では、「あなたのいちばんに。」をスローガンに、お客様のサステナビリティ経営の実現に向けた取組みを積極的に支援してまいります。

記

グリーンローンは、Loan Market Association、Asia Pacific Loan Market Association、Loan Syndications and Trading Associationが策定した「グリーンローン原則」（以下「GLP」）及び環境省が策定した「グリーンローンガイドライン」（以下「環境省ガイドライン」）に基づき、企業が調達した資金の全額を、環境改善効果のある取組みのため調達する際に用いられる融資のことをいいます。

日本GLPでは、グリーンファイナンスによって調達した資金をグリーン適格クライテリアとして、グリーンビルディングにかかるプロジェクトへの資金もしくは、当該資金のリファイナンスに充当するとしています。本件は、CASBEE評価におけるB+ランク以上の評価を取得予定です。（注1）

なお、日本GLPは、「サステナビリティファイナンス・フレームワーク」を策定し、当該フレームワークが各種原則等の要求事項に適合していることについて、第三者評価機関である株式会社日本格付研究所（本社：東京都中央区、代表取締役社長：高木祥吉）から第三者意見（注2）を取得しています。

借入人	GLP小郡ロジスティック特定目的会社
貸出人	株式会社福岡銀行
資金使途	GLP福岡小郡（マルチテナント型物流施設）の建設資金（着工金）
プロジェクト概要	● 所在地：福岡県小郡市 ● 2023年11月竣工予定 ● 着工、中間、竣工の計3回、グリーンローン実行予定。 ● GLP福岡小郡は、竣工後、グリーンビルディングとしてCASBEE：B+以上の認証を取得予定です。

〈本ローンの概要〉

（注1） 日本GLP株式会社HP

<https://www.glp.com/jp/environmental-policy/>

（注2） 株式会社日本格付研究所による第三者意見

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/sustainability/>

【福岡銀行でのグリーンローン事例】

➤ グリーンビルディングとして、 CASBEE：B+以上の認証を取得

（参考：第三者評価機関のレポート）

News Release



株式会社 日本格付研究所
Japan Credit Rating Agency, Ltd.

22-0-0569
2022年8月25日

—— JCR サステナビリティファイナンス・フレームワーク評価 by Japan Credit Rating Agency, Ltd. ——
株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおりサステナビリティファイナンス・フレームワーク評価の結果を公表します。

日本 GLP 株式会社の サステナビリティファイナンス・フレームワークに SU 1(F)を付与

発行体/借入人： 日本 GLP 株式会社

評価対象： 日本 GLP 株式会社 サステナビリティファイナンス・フレームワーク

＜サステナビリティファイナンス・フレームワーク評価結果＞

総合評価	SU 1 (F)
グリーン性・ソーシャル性評価 (資金使途)	gs1 (F)
管理・運営・透明性評価	m1 (F)

第1章: 評価の概要

日本 GLP 株式会社は、2009年3月に GL プロパティーズ株式会社として設立され、2018年1月に日本における事業に関する戦略の策定と実行を行うベースとして現商号へ変更している。GLP グループは、日本、中国、インド、欧州等 17ヶ国に拠点をもち、日本においては約2兆5,000億円を有する物流不動産投資グループであり、先進的物流施設の開発、運営およびファンドの運営を行っている。グループ内に GLP 投資法人を擁する。

日本 GLP が属する GLP グループでは、「投資家、顧客及び業務を行う地域社会を含む、すべてのステークホルダーの価値の最大化により、ベストインクラスの物流施設を創出する」という理念に基づき業務を行い、ESGへ企業として総合的に取り組むことが、GLP グループおよび株主にとっての最大の利益をもたらす、との信念のもと、ESGに関する行動指針を策定し、当該指針に則り業務を遂行している。

本報告書は、日本 GLP 株式会社が JCR のサステナビリティファイナンス・フレームワーク評価の結果を公表するものである。評価結果は、JCR のウェブサイトで公開されている。

FFGにおけるサステナブル・ファイナンス取組み事例（2）

- 前頁にてご案内したグリーンローン事例
完成イメージ



ご清聴ありがとうございました。

あなたのいちばんに。



株式会社福岡銀行 産業金融部 サステナビリティ推進グループ